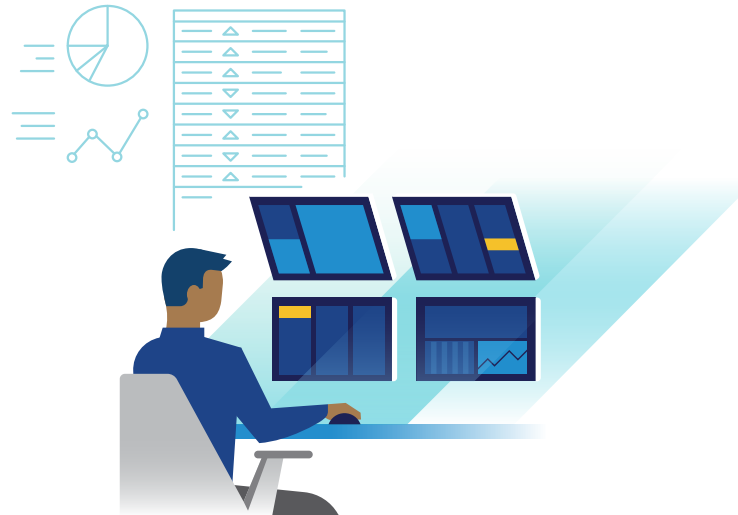


# DXを成功に導くモダンアプリケーション

本調査\*は、コロナ渦における企業の活動や優先事項を示しています。アジャイル開発は高成長企業で浸透している一方で、日本企業でのアジャイル活用は未だ低調です。

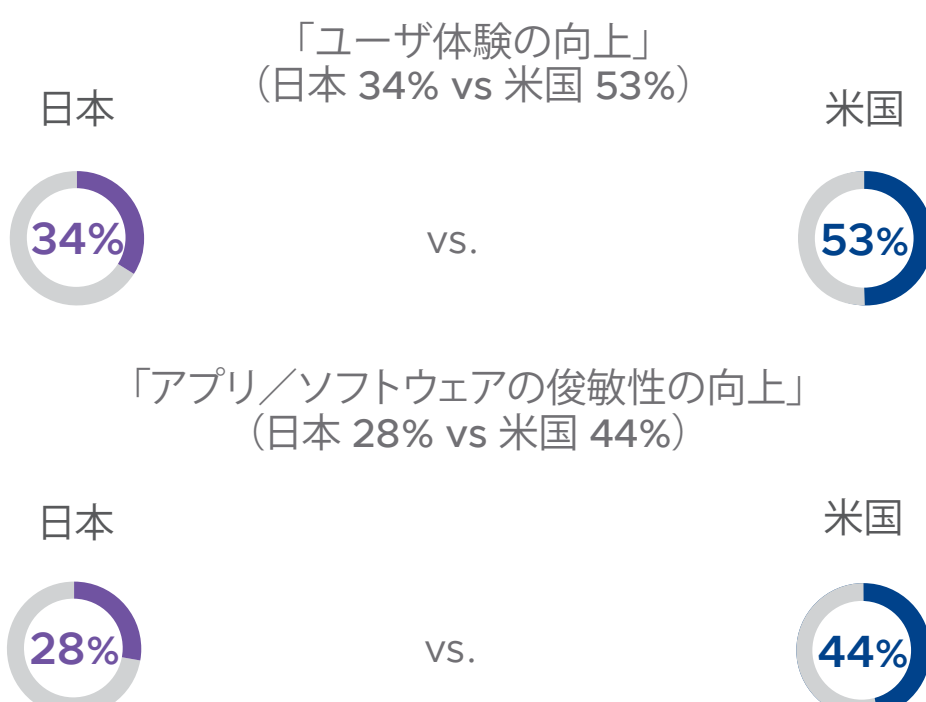
## 調査結果から得られた重要なポイント

アプリ開発者、IT意思決定者、ビジネス意思決定者を対象にVanson Bourne社が実施した本調査において、日本の対象者は450人でした。



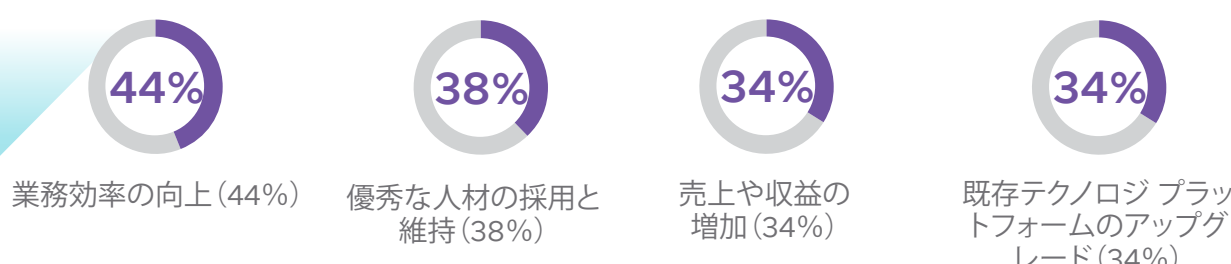
## 1 モダンアプリ/ソフトウェアのメリット

日本からの回答のうち、米国との違いが最も大きかったのは「ユーザ体験の向上」と「アプリ/ソフトウェアの俊敏性の向上」でした。

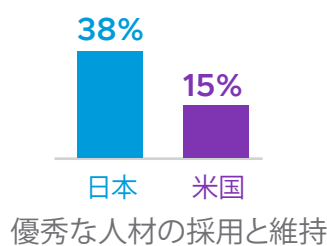


## 2 DXの優先事項

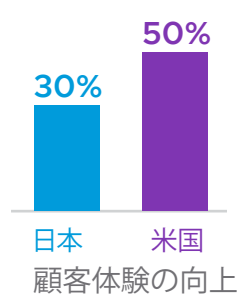
日本企業におけるDXの優先事項



「優秀な人材の採用と維持」を挙げた日本の回答者は38%。対して、米国の回答者は15%でした。



「顧客体験の向上」を挙げた日本の回答者は30%。対して、米国の回答者は50%でした。



## 3 俊敏性とイノベーション



### 47%

日本企業でのアプリ/ソフトウェア開発プロジェクトのステップのうち平均すると47%はアジャイルであると見られており、これは米国の53%に比べて低い割合でした。

## 企業の成功に貢献するアプリケーションのモダナイゼーション

モダンアプリケーションがコロナ渦の企業の成功に貢献しています。また、デジタル社会での成功を目指すには、アプリケーションやソフトウェアの開発におけるアジャイルの活用を増やす必要があります。



優れたソフトウェアのより迅速な提供



マルチクラウド運用の簡素化



開発者とIT運用担当者を共に変革

\*世界17カ国のビジネス意思決定者、IT意思決定者、アプリ開発者5,000人を対象に、VMwareの委託を受けたVanson Bourne社が、2020年3月と4月に調査を実施しました。

本調査結果の詳細は、以下よりご覧いただけます。

[vmware.com/radius/businesscontinues](https://vmware.com/radius/businesscontinues)